月報
岡崎の教育
平成18年5月1日
5月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
前額田町長　鈴木　啓允氏
この人に聞く …… 2
バレーボールＶリーグ選手　草深　暢子氏
羅針盤 …… 2
社会科指導員　松浦　良昭
ふれあい …… 3
竜谷小　山本　純子
葵　中　名倉由香里
特　集 …… 4
進むリサイクル
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー … 8
ふれあい読書（昭和53年）
この本を …… 8

教育随想

ふるさと大好き勉強こそ人格を整えていく

前額田町長
鈴木　啓允　氏

本年一月元旦より岡崎市と旧額田町は合併し、「人、水、緑が輝く活気に満ちた美しい都市　岡崎」を、新市の建設計画のスローガンとして輝かしくスタートしました。

その岡崎市に仲間入りさせていただき、旧額田町民一同大変光栄に思っております。

これからの額田地区の役割は、美しい大自然と、そこから湧き出づる清流を守り、癒しと憩いの地として新生岡崎市民の皆さんと共有していくことにあります。

旧額田町は、本宮山を頂点に緑深い山々に抱かれ、母なる乙川のせせらぎを耳に、四季が織り成す大自然の営みはまさに「山紫水明」の里であります。

悠久の時の流れの中で常に八つの小学校と一中学校が地域の教育、文化をはじめ、すべての拠点となり、村々の歴史を刻み「感動とドラマ」を生み続けてきました。

大自然の宝庫である恵まれた環境の中で、子供と大人が一緒になって小規模校でこそ出来る地域ぐるみの「ふるさと大好き教育」を積極的に進め、各種環境保全の学習に大きな成果を上げております。

二十一世紀は心の時代であります。未来の郷土発展を担う子供たちがのびのびと健やかに育つためには「町づくりは人づくりから」であり、「創造たくましく夢限りなく」ふるさとに愛着を持てる子供たちは、家族の絆、地域の絆を大切に思い、人格が整っていくものであります。

（すずき　ひろよし）

ふるさとシリーズ

この人に聞く

バレー一筋の青春

バレーボールVリーグ選手
草深　暢子　氏

デンソーエアリービーズ所属、背番号四。現在、Vリーグで唯一の岡崎市出身の選手である。高松市で公式戦を終えた翌日、つかの間のオフにお話をお聞きすることができた。

「本当はソフトボールをやりたかったんです。しかし、男子部しかなくて、仕方なく背が高いというだけでバレーボール部に入りました。でも、小学校の卒業文集には、『将来、全日本に入る』と書くぐらいバレーの楽しさを感じていました。」

矢作北中学校に入学し、この先の彼女の人生を決定づける顧問の先生との運命的な出会いがあった。

二年生の夏には、東海大会三位。全国大会出場まであと一つが勝てずに涙をのんだ。

「新チームが発足し、先生に『目標は何だ』と聞かれ、迷わず全員で『全国大会出場です』と答えました。それからは遊びに行った記憶がありません。でも、不思議なことに、やめたいとかつらいとか思ったことはありません。」

三年生の夏には、県大会、東海大会ともに優勝し、念願の全国大会に出場した。さらに、中学校卒業後の春休みには、中学選抜の一員としてJAPANのユニフォームを着て中国遠征に出かけた。

岡崎学園高等学校からデンソーに入社し、二年目からスピード・パワー・守備力を兼ね備えたエースアタッカーとしてVリーグで活躍する。

「私たちは、バレーで給料をもらっています。学生時代とは違う責任感があるんです。」

Vリーグの厳しさを熱く語る。

「外国人選手とは、身長も違うし、ジャンプ力も違う。相手の力を利用したり、組織力で対抗したりするなど、小さい選手には小さい選手なりの攻撃があるんです。」

身長一七三センチとVリーグの中では小柄な彼女が成功の秘訣を語る。

そんな彼女にも転機が訪れる。入社七年目、骨膜炎を患い、初めて休養することになる。

「限界かとも思いました。でも、バレーが好きなんですね。リハビリに励み、コートに復帰しましたよ。」

入れ替わりの激しいバレーの世界で、いよいよ十年目を迎える。現在は、場面に応じて若手にアドバイスしたり、自分の経験を伝えたりする指導的な立場として、まだまだチームに欠かせない存在である。

「バレーを続けてきたから多くの人に会えましたし、一つのことに打ち込めました。目標がないと意味がないのです。楽しくないと続かないのです。」

一つ一つの言葉には、自分の道を自分で切り開いてきたという自信がみなぎっていた。

（氏　名　くさふか　ようこ
住　所　西尾市下羽角町住崎一
デンソー女子バレー部合宿所）

子供たちの意識を生かした授業

社会科指導員　**松浦　良昭**

A小学校B教諭の、四年生『川のつけかえ』の授業でのこと。流水実験で川の氾濫（はんらん）の様子をつかんだ後の本時は、「雨がたくさん降ると、川の水があふれて、さび田になってしまう」という子供の発言で始まった。

この子供たちの意識が、次に先生の示した資料によって揺らいだ。川の周辺地域の石高が増加したグラフを提示し、さらに一石が米俵三俵分であることを、実物を見せながらとらえさせた。一三七石の増加だから、米俵四一一俵分となることが分かり、「さび田で苦しんでいるはずなのに、なぜ石高が増えているのか」という疑問が、そのまま学習問題となった。子供たちの意識と学習問題を結びつける絶妙な導入である。

すかさず先生は子供たちに予想をさせ、「水を減らしたんだ」とか、

トラブルを転機に

竜谷小　山本　純子

「もうだれもたたかない」「約束だよ」入学して以来、何度この約束を交わしただろう。一日に何度も友達とのトラブルを繰り返すA男。「またか」と思い、一方的にしかる日もあった。どのようにA男と向かい合っていけばよいのだろうか。

私は、一日に一度はA男と一緒に笑顔で活動しようと決めた。授業中、休み時間、清掃中、給食の時間、下校時など、努めて接するようにした。私と一緒にいるときのA男は朗らかで笑顔である。しかし、ふと気付くと、泣いている子の傍らに困惑した表情のA男がいた。

そこで、毎日二人で反省会をすることにした。「今日はどうだった」「泣かした。二人」「なぜ」というように、A男の気持ちを受け入れながらも、明日こそ乱暴はやめようと約束する。

そんな反省会が二週間ほど続いたある日、「たたいちゃいけないって思ったのに」と、A男が泣きながら言った。「あと少しだね。きっと我慢できるようになるよ」と励ます言葉に、涙をぽろぽろと流しながらうなずくA男。その手を取りながら思った。「トラブルは困りごとではない。転機だ」と。A男は変わろうとしている。

最高の笑顔

葵　中　名倉由香里

四月、初めて担任となった私は、ただがむしゃらに、最高の学級をつくろうという思いで、学級経営に取り組んできた。

三学期になり、「本当に最高の学級だ」とクラス全員が胸を張って言うには、何かが欠けていることに気付いた。それは、学級全員が一つになって達成する具体的な目標がなかったことだ。私の思いを生徒たちに投げかけ、決まった目標が、「大きな声であいさつをする」だった。

その日から、毎時間授業の最後に、教科担任の先生にあいさつの善し悪しを判定してもらう教科係の姿があった。毎時間の判定が「合格」で一日過ごせればその日はパーフェクト。目指すは七日間パーフェクトである。教室に大きなあいさつの響き渡る時間が増える。しかし、なかなかパーフェクトは続かない。いよいよ目標達成と思った七日目、「合格」がもらえなかった。しかし、その授業の後も、「次から、次から」「大きな声を出そうね」と、互いに声を掛け合う生徒たちの姿があった。私も毎朝の黒板日記に励ましの言葉を綴った。

迎えた三月。とうとう七日間パーフェクトを達成した日、生徒たちの笑顔は最高そのものだった。

「川の横を高くした」とか、「田の周りを高くした」とかいった、洪水を防ぐ方法が出されたところで、江戸時代の二枚の絵図を提示した。この絵図からは、子供たちが予想もしなかった川のつけ替えが読み取れる。子供たちは川の流れが変わっていることを見つけ、石高が上がったことと結びつけることができた。

授業づくりに当たっては、資料から子供たちが何を見つけ、何を考え、どんな意識になるか。また、そこからどんな追究が新たに始まっていくのかと考える。実際の子供たちは、予想以上に多くのことを見つけたり、逆に予想以下であったりすることもある。そんな子供たちの反応に応じて、授業はつくられていく。

「川の氾濫によるさび田の状況」と、「石高の増加」、そして「川のつけ替え」を結びつけるための、よく練られた資料提示であった。「川の流れが変わることによって、さび田にならなくてすむから石高が上がった」という子供の発言に、クラス全体がうなずいた。そして、「これって、自然に変わったのかな」と先生が投げかけて授業が終わった。授業は、子供たちの意識を生かしたものでありたい。

▲ ごみの分別（上地小）

社会経済活動の変化や人口の増加により増え続けてきたごみ。岡崎市では、ごみを減らしリサイクルを推進するために様々な取組をしてきた。

・平成十三年　粗大ごみの有料戸別収集
・平成十四年　家庭ごみの三分別収集
・平成十五年　事業所から出る古紙のクリーンセンターへの搬入規制

その結果、ごみの量は、家庭系・事業系ともに減少し、リサイクルの体制が整ってきた。中央クリーンセンターのリサイクルプラザでは、びんや缶の選別・資源化、家具や自転車の再生と展示販売、廃ガラスを活用したガラス工芸講座などが行われており、多くの市民が利用している。

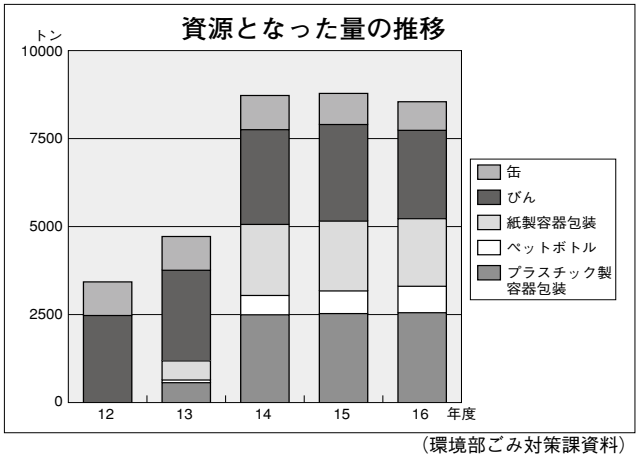
学校現場でも、以前のように紙ごみを燃えるごみとして出すことなくしっかりと分別し、全てをリサイクルしようとしている。また、生徒会や児童会の空き缶回収や、子供会やPTAの資源回収もリサイクルに大きく貢献している。

また、総合的な学習の時間の一環として「ごみ減量とリサイクル推進」をテーマとした「環境教室」を各校の要望に応じて実施しており、市と学校が協力して取り組んでいる。

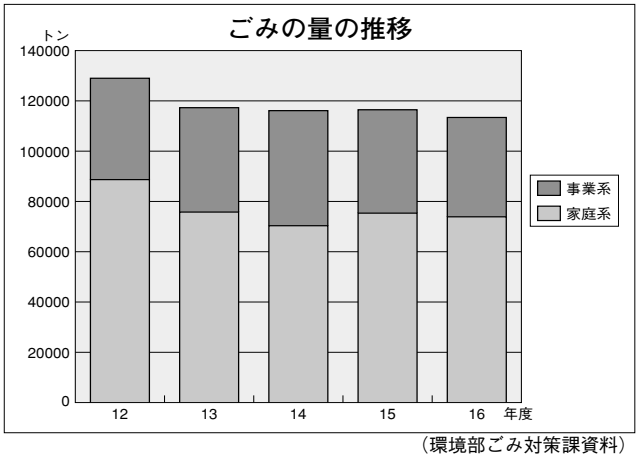
さらに、平成十七年十月には、新しいペットボトルのリサイクルシステムを導入した。

従来は収集後、民間に処理委託していたが、処理の一部を市独自で行い、リサイクル事業者へ売却するという新しいラインを稼動させ、経費節減と作業の効率化を図っている。

このようにリサイクル推進の動きは、岡崎市全体へ浸透してきている。私たちも進んで協力するとともに、できるだけごみを出さない生活を心掛けていきたい。



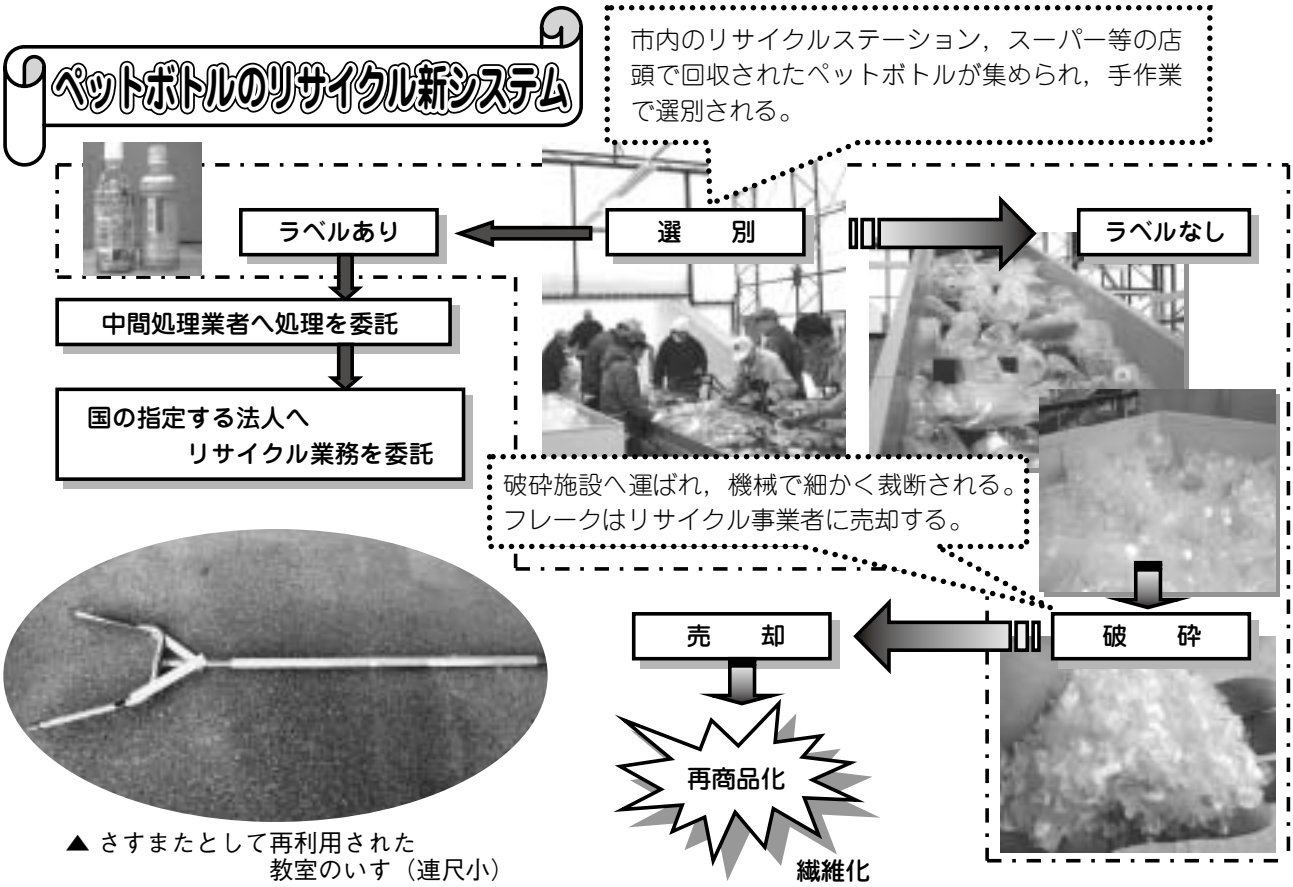
（環境部ごみ対策課資料）



（環境部ごみ対策課資料）

▲ 展示販売（リサイクルプラザ）

▲ 環境教室（竜南中）



▲ さすまたとして再利用された教室のいす（連尺小）

▲ 資源回収（東海中）

▲ アルミ缶回収（愛宕小）

お知らせ

● 教育最新情報

確かな学力の育成
～岡崎スタンダードの活用～

岡崎市の子供の実態をもとに、確かな学力の育成をめざして作成、活用をすすめている「岡崎スタンダード」の一学期分が、今年の四月に各学校に配布された。

昨年の二学期から中二の国・社・数・理・英と、小五の国・算・社・理について活用しているが、今回は小一～小四の国・算、小六の国・算・社・理、中一と中三の国・社・数・理・英が配布された。

学習指導計画に挟み込み、各学級・各教科で十分に活用したいものである。なお、今年度から使用する中学校の新しい学習指導計画には、中二の分が綴じ込まれている。

「岡崎スタンダード」は、学習指導要領の岡崎版ともいえるものである。

具体的には、学習内容の基準の中に、「重点指導項目」「発展指導項目」が提示され、それを扱う授業時間数の増減や、指導の仕方、流れ、資料、配慮したいこと等が示されている。これは、教師の授業力・指導力をアップさせる具体的な手だてとなり、岡崎市の子供の学力の更なる向上に資するものである。

学ぶ意欲を育て、確かな学力を育成することは、学校教育の基本的な役割である。

基礎的・基本的な知識・技能の育成（いわゆる習得型の教育）と、自ら学び自ら考える力の育成（いわゆる探求型の教育）の両方を総合的に育成することが必要である。

そのためには、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、その理解・定着を基礎として、知識・技能を実際に活用する力の育成を図ることが求められる。

「岡崎スタンダード」により、今まで以上にきめ細かな指導が可能となる。各学校の児童生徒の実態に応じて、これを十分に活用し、確かな学力の育成に努めていきたいものである。

そして、活用状況をもとに内容等を吟味し、さらに精度を高めて、今年度末には、岡崎の教師のバイブルとなるようにまとめ上げたいと考えている。

● 教員免許取得

○小・中の一種免許取得

平成十七年度の免許に関する申請は、市内で三十九件。認定講習の応募者は幼・小・中を合わせて、八十九名が、一七一の講座を希望した。

教育職員免許法第九条で、一種免許状の取得努力義務が課せられ、単位修得に高い関心が寄せられている。

現在、隣接校種（小学校教員なら幼稚園と中学校）の免許取得で、優遇措置がとられており、ぜひ、小・中の両免を取得するようにしてほしい。

○免許状の種類

免許状の種類は、主に「専修」「一種」「二種」の三段階である。教員を続けながら免許を取る方法としては、大学の通信教育で所定の単位を修得する方法と、認定講習等で単位を修得する方法がある。

○免許状の申請

免許状の申請には、主に次の四つが挙げられる。

①上位免許状の申請
②他教科の免許状の申請
③特殊学校免許状の申請
④隣接校種の免許状の申請

在職年数に応じて、必要単位数が逓減されたり、教育実習が免除されたりしている。

※①の免許を年度内に希望される方は十一月末までに申請したい。

※②③④の免許を年度内に希望される方は、一月末までに申請したい。

○栄養教諭普通免許状の創設

平成十六年十月五日より、免許法等の一部改正に伴い創設された。平成十七年度は、三名が免許を取得した。

○教育職員免許法認定講習

申込書は、毎年五月中旬に配付を予定している。

・口座数は、約二十五講座
・一講座当たり一単位
・講座は、八月の指定日

※詳しくは、岡崎市教育委員会学校指導課（免許担当）までご連絡いただきたい。

（連絡先TEL二三―六六四〇）

◆平成十八年度校長会役員

〈小中学校長会役員〉

会　長　江村　力（大樹寺小）
副会長　浅井　稔（六名小）
　　長坂　正延（葵　中）
　　鈴木　育男（六ツ美北中）
会計監査　永田　邦雄（根石小）
　　石原比朗志（美川中）
庶　務　福應　謙一（連尺小）
　　大久保慎一（竜海中）
庶務補佐　菅原　秀美（河合中）
会　計　河村　喜美（城北中）
　　早川　正春（竜美丘小）
会計補佐　神尾　光伸（梅園小）
評議員　山本　光昭（細川小）
　　近藤　健一（矢作西小）
　　本多　久勝（六ツ美北部小）
　　神尾　心一（広幡小）
　　野本　欽也（大門小）
　　豊田　文男（夏山小）
　　川瀬　哲夫（上地小）
　　長坂八重子（愛宕小）
　　松井　伸市（矢作南小）
　　山中三江子（恵田小）
　　尾崎　芳信（矢作中）
　　小林　國良（額田中）
　　野村　正文（六ツ美中）
　　内田　明夫（竜南中）
　　河合　安男（北　中）
　　渡辺　邦夫（新香山中）

〈小学校長会〉

会　長　浅井　稔（六名小）
副会長　永田　邦雄（根石小）
　　近藤　健一（矢作西小）
会計監査　山本　光昭（細川小）
庶　務　野本　欽也（大門小）
会　計　早川　正春（竜美丘小）
会計補佐　神尾　光伸（梅園小）

〈中学校長会〉

会　長　長坂　正延（葵　中）
副会長　鈴木　育男（六ツ美北中）
　　石原比朗志（美川中）
会計監査　菅原　秀美（河合中）
庶　務　河村　喜美（城北中）
会　計　尾崎　芳信（矢作中）
会計補佐　河合　安男（北　中）

〈専門委員会委員長〉

法　制　坂井　節（東海中）
理　財　河村　喜美（城北中）
給　与　早川　正春（竜美丘小）
文　教　菅原　秀美（河合中）
進　路　小林　義孝（常磐中）
研　修　川瀬　哲夫（上地小）
保　体　尾崎　芳信（矢作中）
福　安　野本　欽也（大門小）
給　食　渡辺　邦夫（新香山中）
広　報　大久保幾三（緑丘小）
生徒指導　河合　安男（北　中）

◆平成十八年度研究発表校

●九月二十九日　岩津小学校
「自ら学び、ともに追究し、高め合う子の育成
―コミュニケーション能力を生かすための手だて―」
●十月十三日　大門小学校
「生き生きと主体的に学び合う子どもの育成
―学校評価システムをデザインする―」
●十月三十一日　六ツ美南部小学校
「学ぶ喜びを育む授業
―見つけ、磨き合う力の向上を目ざして―」
●十一月十七日　常磐小学校
「強く正しくすこやかで活力あふれる常磐っ子の育成
―自ら気づき、考え、ともに行動できる子を目ざして―」
●十一月二十二日　城北中学校
「創意と活力に満ちた信頼される学校づくり
―学びを高め、感動を共有する城北教育―」

◆岡崎市教育委員学校訪問

●秦梨小学校　五月十一日
●千万町小学校　五月二十五日
●南中学校　六月十五日
●広幡幼稚園　六月二十九日
●岡崎小学校　九月二十一日
●本宿小学校　九月二十八日
●竜海中学校　十月五日
●新香山中学校　十月十九日
●豊富小学校　十一月九日
●宮崎小学校　十一月十六日
●三島小学校　一月十八日
●生平小学校　一月二十五日
●福岡小学校　二月八日
●矢作西小学校　二月二十二日

◆県教育委員会教職員課訪問

●十一月九日　福岡中学校

◆県教育委員会義務教育課訪問

●六月一日　梅園幼稚園
★その他に主事訪問を予定している。

◆平成十八年度特別委員会

●市民大学運営委員会
●月報「岡崎の教育」編集委員会
●教員の研修に関する委員会
●学校環境緑化推進委員会
●野外活動委員会
●情報教育推進委員会
●行事・部活動研究委員会
●学校週五日制研究委員会
●特色ある学校づくり委員会
●郷土読本編集委員会
●教育課程第一研究委員会
●教育課程第二研究委員会

◆その他の関係委員会

●岡崎市中学校区児童生徒健全育成連合協議会
●岡崎市就学指導委員会
●岡崎市中学校特殊学級進路指導委員会
●岡崎市いじめ不登校対策委員会
●岡崎市特別支援教育連携協議会
●岡崎市ＯＣ連絡協議会

▲ 現職研修委員会総会（城北中　4月17日）

フォトヒストリー 岡崎の教育

ふれあい読書
（昭和53年）

写真提供：根石小学校

根石小学校の読み聞かせ「ふれあい読書」が始まったのは、昭和五十三年。今年で二十九年目になる。当時、「最近の子供は本を読まなくなった」と先生方が嘆いていた。それを聞いた校長先生が「嘆くのはやめよう。その代わり一日に二十分でもよいから、子供たちと読み浸る時間を用意しよう」と言われたことが根石小の読書指導の原点である。この「ふれあい読書」は、先輩の先生方の努力で今日も続いている。

市内の各校では、近年、ボランティアによる読み聞かせが盛んに行われている。本の楽しさを味わう子供たちが、今後さらに増えていくことが期待される。

・カット　河合中　高橋　誠

オアシス

男川やなは、旧額田町の観光スポット。子供から大人まで楽しめる鮎（あゆ）のつかみ捕りは人気である。また、千万町茅葺屋敷（せんまんじょかやぶき）では、農業体験やそば打ちなど、様々な体験イベントが開催されている。自然の恵みを体感できるこの季節。地元の観光地にも足を運んでみたい。

新芽を丁寧に手摘みをした一番茶が香る五月。昔から八十八夜に摘んだ新茶は、不老不死の妙薬として珍重されてきた。

新茶には、秋から冬にうまみ成分が豊富に蓄えられる。一服のお茶を飲んで気分一新、近づく夏に備えよう。

赤や黒の真新しいランドセルに背負われながら登校する新一年生。近ごろはカラフルな色のランドセルも増えてきた。これも個性の時代の反映と言うべきか。外から見える個性はともかく、内なる個性を伸ばしてほしいと、大きなランドセルに隠れた、その小さな背中に願う。

スーパーの回収箱に入れられたトレイやペットボトル。年々新しいシステムが導入され、ごみの減量・リサイクルの推進は確実に成果をあげてきている。最も大切なことは、一人一人が意識し、行動を起こすことではないだろうか。美しく、豊かな地球を守るためにも。

この本を

＊壊れる日本人　柳田　邦男
新潮社　￥1470

＊美人の日本語　山下　景子
幻冬舎　￥1470

＊毎日が歌ってる　増田　太郎
すばる舎　￥1575

＊日本の女子中高生　千石　保
ＮＨＫブックス　￥882

＊最後は願うもの　山本　博
ジャイブ　￥1400

中年の星と騒がれ，一躍時の人になった著者が，中学校で初めてアーチェリーに出会い，アテネオリンピックで銀メダルを獲得するまでの様子が瞬時にわかる書である。栄光と挫折（ざせつ）を味わう人生の中で，支えられることへの感謝と目標完遂のためのたゆまぬ努力の足跡が，読み手に深い感動を与えてくれる。

現役の教師でもある著者の言葉は，体験に裏打ちされたものだけに重みがあり，学級等での訓話に最適である。